

『ワクチン接種とフェイク情報』

ワクチン接種の有効性の評価には

- ①感染予防
- ②発症予防
- ③重症化予防 があります。

従来株のウイルスには、現在接種されているワクチン(日本ではファイザー、モデルナの mRNA ワクチン)はこのいずれにも有効であるというデータが示されていました。

しかしデルタ株に対しては感染予防、発症予防の点で少し低下するといわれており、最近ではワクチンを2回接種していても感染する、いわゆるブレイクスルー感染が報道されています。

しかしその重症化予防については、良好な成績が示されています。

ただし、時間とともにその有効性は低下する可能性は指摘されており2回目接種から約6~12ヶ月後に3回目接種をするブースター接種の可能性が議論されています。

地球規模で見れば未だ1、2回目の接種も未施行の国々もあり、その妥当性には議論のあるところです。

ワクチン接種の是非については以前から様々な情報が乱れ飛んでおります。

その有効性については先の述べたとおりですが、一方で長期的、短期的な副反応への恐れによりワクチン接種をためらうという考えをしばしば聞きます。もちろん軽度な局所反応などの短期的な副反応はしばしば認められ皆様の中にも経験されている方をおられると思います。またアナフィラキシーショックのように発生率は100万人に数名ではあるものの生命の危険を伴う副反応もありますが、適切に対応すれば問題はないといえます。

一方で mRNA という遺伝子ワクチンであるため、その長期的な副反応を心配する声を聞きます。

もちろんわずか1年前に世界で初めて接種開始されたワクチンであり、わからないことは多々あります。

しかし mRNA は非常に不安定であり接種後長くて数日で分解されています。

また mRNA が細胞核内に移動し遺伝子本体の DNA に影響することは科学的にありえません。

したがって数年から10年後、あるいは妊娠前の女性に接種して、将来の子供に影響が出ることは科学的には考えにくいことです。

このような根拠のない情報、いわゆるフェイク情報を正確に排除する必要があり、

- ①不安なときは白黒はっきりした情報を信じがちであると認識する
- ②目の前にある情報が偏ったものでないかを点検する
- ③こういった情報は、少数の発信者から出て多くの拡散者によって一般の人の元にやってくる、極端な情報が多い

という特徴があるそうです。

このようなフェイク情報には、多くの専門家の意見を知り検証された情報か、そうでないかを見極めるための感受性を磨く必要があります。

情報は常に更新されているので、いつの情報なのかを常にチェックし、多数の専門家が合意したものか、特定の個人の意見なのかを常にチェックしてミスリードされぬよう注意しましょう。

